









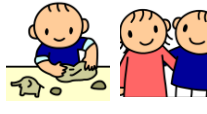

















3月トリアだより



3月の活動

月	火	水	木	金	土
<p>※クッキングは子どもたちに、アイスクリームのトッピングを選択してもらい、パフェを作る予定です。準備物は特にありません。</p>  				<p>1 運動 認知課題</p> 	<p>2 休み</p>
<p>4 音楽・絵画</p>  <p>スモック</p>	<p>5 屋外・手指</p>  <p>帽子</p>	<p>6 感触・ルール</p>  <p>スモック</p>	<p>7 運動 認知課題</p> 	<p>8 みつばち プロジェクト (早降園日)</p> 	<p>9 音楽</p> 
<p>11 屋外・手指</p>  <p>帽子</p>	<p>12 感触・ルール</p>  <p>スモック</p>	<p>13 運動 認知課題</p> 	<p>14 音楽・絵画</p>  <p>スモック</p>	<p>15 屋外・手指</p>  <p>帽子</p>	<p>16 休み</p>
<p>18 感触・ルール</p>  <p>スモック</p>	<p>19 運動 (早降園日)</p> 	<p>20 休み (春分の日)</p>	<p>21 屋外・手指</p>  <p>帽子</p>	<p>22 感触・ルール スモック (避難訓練)</p> 	<p>23 運動</p> 
<p>25 運動 認知課題</p> 	<p>26 誕生会 クッキング</p> 	<p>27 屋外・手指</p>  <p>帽子</p>	<p>28 認知課題 閉級式</p> 	<p>29 運動 クッキング</p> 	<p>30 休み</p> <p>31 休み</p>

※専門職の来所予定日

公認心理師(松本): 2日(土)、5日(火)、13日(水)、29日(金)

言語聴覚士(永山): 1日(金)、7日(木)、8日(金)、11日(月)、21日(木)、22日(金)、27日(水)、28日(木)

理学療法士(樋口): 14日(木)、15日(金)、19日(火)、25日(月)、

作業療法士(大平): 6日(水)、12日(火)、18日(月)、23日(土)

児童発達支援センター歩路だより

「子どもへ“さまざまな価値観”を伝えましょう！」

子どもたちは「一番がよかった」「〇〇くんより早かった」など、順番や早さにこだわることはありませんか？もちろん、一番や早くできたことはうれしいと思いますが、一番になれない時は落胆する気持ちもあるかと思います。子どもの気持ちを受容しながらも、日頃から、以下のポイントを意識してことばの掛け方を工夫しながら、子どもたちとのやりとりを楽しみましょう。

○「一番」や「早い」以外にもさまざまな価値観があることを伝えましょう。

（「きれいにできた」「丁寧にできた」など。）

※「一番」や「早い」こと自体が悪いことではありません。順番を競うことで意欲に繋がることもあります。

さまざまな価値観を知っておくことが大切です。

○無意識に大人が「一番」や「早さ」を求めていることを意識しましょう。

（「早く準備して」「一番だったのすごいね」ではなく、

「〇分までに準備してくれたら助かる」「最後まで頑張ったね、すごいね」など。）

笑顔の花を咲かせましょう

梅の花が、控えめに「もうすぐ春ですよ。」と告げてくれるようになりました。

今年は、年頭からさまざまな事があり被害を受けた方々の事を思うと胸が痛みますね。

今回は、私が最近よく考えるようになった「応答」についてお話させていただきます。「応答」ということばを調べると、「問いや話しかけに答える事・受け答え」という意味が出てきます。単純に「聞かれたことに答える」というイメージですね。ただ、この「応答」ということばには、もっと深い意味がある気がしています。子育ての中で考えると、子どもが応じてほしいタイミングや内容と私たちの働きかけのタイミングや内容が一致している事が、子どもたちの満足度やその後の人とのかかわり方に大きな影響を与えるのではないかとこの事です。

大人のタイミングで、子どもとかかわりを持ったとしても、子どもは「今」それを望んではいないかもしれない。子どもが「今」かかわって欲しいと思っても、大人は忙しい時間であったり、気分が乗らなかつたりしてかかわれない。または、子どもが望んでいるかかわりとは別のかかわりをしてしまう。このようなずれが、何回も続いていくと、子どもは「もういいや」「どうせむりだよ」と「本当にしてほしいこと」をあきらめてしまうのではないのでしょうか。

例えば、怖い夢をみてお昼寝から起きた子どもが不安になった時に、子どもは「抱っこをして、大丈夫よ」と応えてほしい。でも、大人は忙しくて抱っこできなかつたり、子どもの好きな事を提案したりすれば泣き止むのではないかと、泣いている子どもに「好きなビデオつけてあげるから泣かないのよ」と応答する。とりあえず、子どもは泣きやむかもしれませんが、でも、子どもの気持ちは満たされるでしょうか。

このような「少しずれた対応」を私も三人の子育ての中でたくさんしてきたのだなあ最近思い返すことがしばしばあります。そして、もっと子どもたちの気持ちを理解するよう努めれば良かった、いろいろな事を後回しにしても子どもの「今してほしい思い」に応えていたら良かったのではないかととも思います。

現在、子育て真っ最中のご家族のみな様、子どもが泣いているとき、不安そうにしているとき、元気がないとき、何かを訴えかけているときこそ「応えてあげる」べきときなのかもしれません。子どもたちが「安心」して毎日楽しくわくわく生活するために、「応答」について考えてみてはいかがでしょうか。今より、もっとこどもの笑顔が増え、良い関係が築けること間違いなしです！すべての子どもたちの笑顔が輝けるよう、私たちもご家族と同じ想いでお子さまたちとのかかわりを深めていきたいと思っております。

今年度もご理解とご協力に感謝いたします。



児童通所部門 園長 水流かおる(公認心理師・社会福祉士)

